

日サ協発第 22110008 号

2022 年 12 月 2 日

関係各位

公益財団法人日本サッカー協会

国際サッカー連盟(以下、FIFA)から 2022 年 11 月 7 日付回状第 1814 号をもって「2022-23 年ビーチサッカー競技規則」について通達されました。

FIFA からの回状に添付されている「2022-23年ビーチサッカー競技規則 主な改正」(添付1)を本通達に添付しましたが、ビーチサッカー競技規則全文(日本語版)については準備が整い次第すみやかに展開します。これまでどおり、ビーチサッカー競技にかかわる関係者、特に競技者、監督/コーチそして審判員はこれらの改正を十分に理解した上で、プレー、指導、そしてレフェリングに携わっていただきたく、お願い申し上げます。

これらの改正等は、国際的には 2022 年 11 月 1 日から有効となっておりますが、日本サッカー協会、各地域/都道府県サッカー協会等が主催する他の試合については、添付2のとおり適用されます。各協会、連盟等において、加盟クラブ、チーム、審判員等関係者に周知徹底を図られるよう、併せてお願い申し上げます。

以上

[添付]

添付 1 : 2022-23年ビーチサッカー競技規則 主な改正

添付 2 : 2022-23年ビーチサッカー競技規則の適用開始日

2022-23 年 ビーチサッカー競技規則 主たる変更

競技規則変更の概要

符号: 黄色下線 = 新しい/変更された文章 ~~取り消し線~~ = 削除された文章

第1条－ピッチ

9. ゴール

(...)

FIFA や各大陸連盟の主催下で行われる公式競技会の試合で使用されるすべてのゴールにはボールがゴールに入るのを妨げる付帯的な構造物(ゴールポストとクロスバーを除く、例えば、支柱など)を取り付けていないことが推奨される。

第3条－競技者

7. 反則と罰則

(...)

交代要員が交代の進め方に反してピッチに入った場合、または、チームが規定の競技者数を超えて、もう1人の競技者をプレーさせた場合、主審・第2審判は、その他の審判員の援助を受けつつ、次のガイドラインを適用しなければならない。

(...)

- 主審・第2審判がアドバンテージを適用した場合、
(...)
 - その後、交代要員のチームの相手競技者が反則を行った、または、ボールがアウトオブプレーになったならばプレーを停止し、交代要員のチームの相手競技者に与えられるフリーキックでプレーを再開しなければならない。フリーキックは、プレーが停止されたときにボールがあった位置が相手競技者のハーフ内であったならばその位置から、または、ボールが交代要員のチームのハーフ内であった場合はピッチの中央から行われる。 必要あれば、主審・第2審判は行われた反則に応じて、懲戒措置もとる。
 - その後、ボールがアウトオブプレーになったならば、交代要員のチームの相手競技者に与えられるフリーキックでプレーを再開させなければならない。フリーキックは、ボールが相手競技者のハーフのピッチから出た場合、境界線上から行われ、ボールが交代要員のチームのハーフのピッチから出た場合、ピッチの中央から行われる。

第5条－主審・第2審判

3. 職権と任務

主審・第2審判は、

(...)

競技者が重傷を負ったと判断した場合、プレーを停止し、確実に競技者をピッチから退出させる。負傷した競技者は、ゴールキーパーを含め、ピッチ内で治療を受けることはできず、境界線

の最も近い地点からピッチを離れ、プレーが再開された後のみピッチに戻ることができ、競技者は交代ゾーンからピッチに入らなければならない。

ピッチから退出を求められないのは、次の場合に限られる。

- 競技者の目に砂が入り、ピッチ上で対応が必要なとき。つたとき。この場合、競技者は目を洗うために水を使用することができ、味方競技者の手助けを受けることができる。
- ゴールキーパーとフィールドプレーヤー(ゴールキーパー以外の競技者)が衝突し、対応が必要なとき。
- フリーキックまたはペナルティーキックが与えられ、負傷した競技者がゴールキーパーになったとき。

(…)

第6条－その他の審判員

4. リザーブ副審(RAR)

リザーブ副審が割り当てられる大会や競技会におけるリザーブ副審は、競技会規定に基づき割り当てられることができる。その役割と任務は、ビーチサッカー競技規則に規定される条項に基づくものでなければならない。

リザーブ副審は、

- 競技会規定に基づき割り当てられ、主審・第2審判または第3審判のいずれかが試合の審判を開始または続行することができなくなった場合、第3審判に代わる。また、必要あれば、タイムキーパーとも代わることができる。
- 試合前、試合中または試合後、主審・第2審判の要請に従って、管理運営上の任務を含め、常に主審・第2審判および第3審判を援助する。

(…)

- 試合に関する適切な情報を提供し、主審・第2審判および第3審判を援助できるよう、タイムキーパーの近くにポジションをとる。

第8条－プレーの開始および再開

1. キックオフ

進め方

- 主審がコインをトスし、コイントスに勝ったチームが(…)を決める。
- (…)

すべてのキックオフにおいて、

- (…)
- ピッチ上で、ベンチサイドの反対側のラインにいる主審または第2審判のいずれかが笛でキックオフを行えることを合図する。
- (…)

- キックオフから相手競技者のゴールに直接得点することは、できない。ボールが相手競技者のゴールに直接入った場合、相手競技者にゴールクリアランスが与えられる。ボールがキッカーのゴールに直接入った場合、相手競技者にコーナーキックが与えられる。

第10条－試合結果の決定

3. ペナルティーマークからのキック

進め方

仮想のペナルティーマークからのキックの開始前

(…)

- 試合または延長戦が終了したとき、仮想のペナルティーマークからのキックを行う前に一方のチームの競技者数（交代要員を含む）が相手チームより多い場合、競技者数の多いチームは、相手の競技者数と等しくなるように競技者数を減らすこともでき、除外する場合、除外するそれぞれの競技者の氏名と番号を主審・第2審判に通知しなければならない。除外された競技者は、キッカーとしてまたはゴールキーパーとしてのいずれであっても、キックに参加する資格がない(下記の場合を除く)。

(…)

仮想のペナルティーマークからのキックの進行中

(…)

- ゴールキーパーが反則を行い、その結果キックを再び行うことになった場合、1度目の反則であったなら、ゴールキーパーは注意され、その後同じ競技者が反則を行ったならば、警告される。その後も反則を犯したならば

(…)

- 仮想のペナルティーマークからのキックが進行中に、一方のチームの競技者数が相手チームより少なくなった場合、競技者数のより多いチームは、相手競技者数と等しくなるように競技者数を減らすこともでき、除外する場合、除外するそれぞれの競技者の氏名と番号を主審・第2審判に通知しなければならない。除外された競技者は、それ以降、キッカーとしてまたはゴールキーパーとしてのいずれであっても、キックに参加することができない(上記の場合を除く)。

仮想のペナルティーマークからのキックが進行中の交代および退場

- 競技者、または、交代要員またはチーム役員は、警告される、または退場を命じられることがある。

第12条－ファウルと不正行為

3. 懲戒処置

(…)

警告となる反則

競技者は、次の場合、警告される。

(…)

- 自分のチームのキックオフが行われるとき、ボールがインプレーになる前に相手競技者のハーフに入る（キックオフを行う競技者を除く）。

得点、または決定的な得点の機会の阻止(DOGSO)

競技者が、ハンドの反則により、相手チームの得点または決定的な得点の機会を阻止した場合、反則が起きた場所にかかわらず、その競技者は退場を命じられる(自分のペナルティーエリア内でゴールキーパーが手や腕でボールに触れた場合を除く)。

4. ファウルや不正行為後のプレーの再開

(…)

ピッチの内外にかかわらず競技者が外的要因に対して反則を行い、主審・第 2 審判がプレーを停止したならば、主審・第 2 審判の承認なくピッチから離れたことでフリーキックが与えられた場合を除き、プレーはドロップボールで再開される。(フリーキックが与えられた場合)フリーキックは、次により行われる。

- 反則を行った競技者が相手競技者のハーフの境界線上の地点から離れたのであれば、ピッチから離れた境界線上の地点から
- 競技者が自分自身のハーフからピッチを離れたのであれば、ピッチの中央から

ボールがインプレー中、

- 競技者が審判員または相手競技者、交代要員、退場で退いた競技者もしくはチーム役員に対してピッチ外で反則を行った場合、または、
- 交代要員、退場で退いた競技者もしくはチーム役員が、相手競技者または審判員に対してピッチ外で反則を行った、または妨害した場合

プレーは、反則または妨害が起きたところから最も近い境界線上の地点から行うフリーキックで再開される。これが反則の位置から行われるフリーキックで罰せられる反則で、反則の位置から最も近い境界線の地点がゴールラインの一部であった場合、または反則を行った競技者のペナルティーエリアにあるタッチライン上の一部であった場合、ペナルティーキックが与えられる。

- 交代要員、退場で退いた競技者またはチーム役員が、交代要員、退場で退いた競技者またはチーム役員に対して反則を行った場合、プレーはドロップボールで再開される(第 8 条を参照)。

第13条 – フリーキック

2. 進め方

(…)

- 競技規則で他の位置を示している場合を除き、競技者が承認なくピッチに入る、再び入る、またはピッチを離れたことによる反則に対して与えられるフリーキックは、プレーが停止されたときにボールがあった位置またはピッチの中央から行われる。

4. 反則と罰則

(…)

フリーキックが守備側チームのペナルティーエリア内で行われるときに、相手競技者がペナルティーエリアから出る時間がなくペナルティーエリア内に残っていた場合、主審・第 2 審判はプレーを続けさせる。

第14条－ペナルティーキック

1. 進め方

(…)

ボールがけられるとき、守備側ゴールキーパーは、少なくとも片足の一部を仮定のゴールラインに触れさせているか、または、仮定のゴールラインの上方、または後方に位置させておかなければならない。

2. 反則と罰則

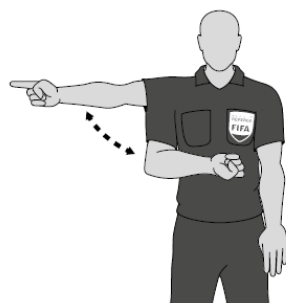
(…)

- 守備側ゴールキーパーが反則を行い、
 - ・ (…)
 - ・ ボールがゴールキーパーによりゴールに入るのを阻止された場合、キックは、再び行われる。

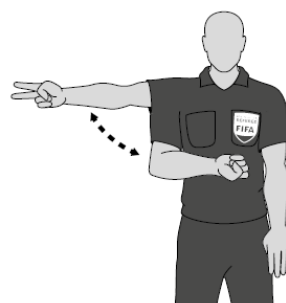
ゴールキーパーが反則を行った結果キックが再び行われた場合、その試合における最初の反則に対しては注意が与えられ、その後、その試合において、その後同じ競技者が反則を行った場合、警告される。

ビーチサッカー審判員のための実戦的ガイドライン

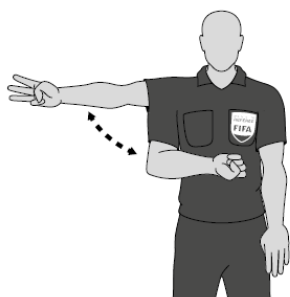
シグナル 4秒のカウント



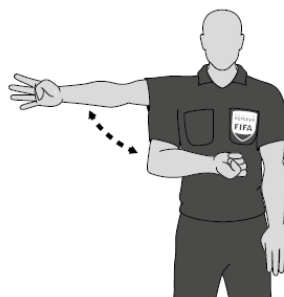
(1秒)



(2秒)



(3秒)



(4秒)



(4秒のシグナル)

ポジショニング

5. ボールがアウトオブプレーのときのポジショニング

最良のポジションとは主審・第 2 審判が正しい判定を行うことができる位置であり、そのポジションを取るにより、プレーと競技者を最もよく見ることができることになる。次に推奨しているポジショニングのすべては、そのようになるだろうという可能性に基づくものにより示している。実際の試合においては、そこまでに至るチーム、競技者または試合中の出来事に関する情報をを用いて、修正していかなければならない。

次の図に示されるのは、基本的なポジショニングである。これらは、主審・第 2 審判に推奨されるものと、必ず行うべきものがある。監視すべき「ゾーン」を強調して示しているが、「ゾーン」は、主審・第 2 審判が求められるポジションをとることによって、実質的にレフェリングの効果を最大化できるエリアとなる。その状況によって、ゾーンは大きくもなるし、小さくもなる、また、形も変わってくる。

ビーチサッカー競技規則 2022-23 の適用開始日について

各種競技会における「ビーチサッカー競技規則 2022-23」の適用開始日は、以下とする。

JFA が主催する競技会	適用開始日	備考
JFA 全日本ビーチサッカー大会	2023 年 1 月 1 日(日)	

上記以外の競技会	適用開始日	備考
地域・都道府県 FA が主催する 各種大会	遅くとも、 2023 年 4 月 1 日(土)	大会主催者が適用開始日 を決定する。